

ひろば  
大代

平成六三、三

大代公民館

私達は大代中学校を卒業する



卒業に当って一言

大代公民館

三月は全国卒業シーズンです、数々の学び技を身につけて巣立って行く大代中学校卒業生。おめでとう！

男子五名、女子三名。僅か八名の卒業生ではありましたが、学業はもとよりすばらしいクラブ活動、スポーツ活動を通して、市内、県下にすばらしい才能や足跡を残してくれました。またふり返ってみますと敬老会や文化祭、都市とふる里交流会など地域のためにも大きく貢献してくれました。

地域に根差して育った卒業生の生徒さん達を送る激励会を三月十二日(土)午前十時より公民館主催で開催したいと思ひます。

入試を控えて何かと行事の多い去る日、卒業生の皆さんの明るい抱負を寄せて頂きました。

- (1) 氏名 (自治会)  
 (2) 将来の進路と希望  
 (3) 趣味や特技  
 (4) 将来こんな大代町を作りたい

★(1) 谷口法司 (四日市)

(2) 高校↓大学進学か専門学校へ

(3) 特技は毎朝、目覚まし時計より早く起きて止めること。

(4) 僕は将来、今のように緑の多い大代を残していきたいと思ひます。もし大代が開発されるといふ事にでもなつたら、緑を守る友の会を作るのでその時はよろしくお願ひ致します。

★(1) 谷口 勝 (本郷)

(2) 高校進学↓就職

(3) 趣味は映画鑑賞・特技は卓球

(4) 今のままでいい。

★(1) 原田典夫 (平)

(2) 高校進学↓就職

(3) 趣味はプラモデル作り

(4) 緑あるりっぱな町にしたいです。

★(1) 原田美寛 (八反田)

(2) 高校↓就職

(3) 趣味は音楽鑑賞・特技は卓球

(4) 大代のこの自然をいつまでも守ってほしい。

★(1) 渡井克志 (川上)

(2) 高校↓大学↓就職

(3) 趣味は映画鑑賞

(4) 大代町は緑があつて良いがもう一つ活気のある町にしてほしい。

★(1) 田辺和美 (椿)

(2) 高校へ行つて専門学校を出て調理師の資格を取つて自分の店を開く。

(3) 走ること。

(4) このまま自然がこわされないようにいこいの場がほしい。

★(1) 三宅有紀 (八反田)

(2) 高校へ行つて美術関係の大学へ

(3) 趣味は音楽鑑賞や映画鑑賞と歌を歌うこと

(4) 今のままでいい。

★(1) 渡 良子 (下市)

(2) 高校に行つてできれば短大に行きたい。そして秘書になりたい。

(3) 趣味は音楽鑑賞・特技は卓球

(4) このままでいいけど、何か作るとしたら、自然を生かしたものを作りたいです。



幼・小・中・公民館合同  
家庭教育研修会に参加して

四日市 渡利敦子

昨年四月、二人の子供が幼稚園に入園しました。親の心配をよそに毎日楽しく通園しています。日々成長して行く我が子に、一喜一憂しながら先生の御努力、地域の皆様の温かさに感謝しております。

当日は雪の中にもかかわらず、研修会とくに、泉町長の講演にはたくさんの方が来られ、自らの体験をもとにユニモアを交えて話され、時間の過ぎるのも忘れて聞かせて頂きました。

その中で、私が一番感じたのは、村社会の崩壊ということでした。

得手して価値観が物、金になり、思いやりとやさしさが欠如してきている。子供といえばファミコンなど、都会の子供と変わらない遊びや生活で自然はあるだけである。成人病予備軍といわれる現代の子供達は、豊かさだけを求めた親に原因があるのでとはというお話に深く考えさせられました。

今日一日有意義な時間を与えて頂き

た皆様に感謝致します。

「感動する心」

四日市 西本文子



先日、行われました公開授業を参観し、子供達の一生懸命な姿、また先生方の真剣な御指導で進められておりました。時には笑いあり、なごやかな雰囲気もあり楽しいものがありました。

毎回年を重ねる毎に、子供達の誰もが少しずつ成長しながら変わっているように思います。参観日はいつも楽しみにしている私です。

午後には仁摩町の泉町長をお迎えして講演会がありました。「町の自然とそこに生きる人々の大切さ：どうしたら人の流れが動き出すだろう：」など面白おかしく、分かり易く語られました。人を退屈させない町長の話術には感心致しました。

今のこの時代、感動する事が少なくなつたような気がします。どんな小さな事でも心動かされる事が一つでも多くあればいいと思います。そしてそれが行動に移せる事が出来れば、もっと

もっと良い効果、良い結果が出るのではないのでしょうか。

私は私なりに人々に話かけていこうと思います。

「進歩と向上を目指して」

八反田 三宅計昌

私の友人の息子にA君がいます。A君に初めて会ったのは、彼が中学三年の時でした。当時A君は、今時こんな子がいるのかと思われるほどの悪ガキで、喧嘩はする、先生は殴る、学校に行かない、ファミコンお宅で従って成績もビリに近いという状態でした。

しかし、初めて見るA君の瞳はキラリと光っていました。

「喧嘩やファミコンばかりして学校サボって勉強もせず、勿体無くないかい。君が勉強出来るのは中学のこの一年と高校の三年間の計四年しかないんだよ。その後はまづどんな事があっても勉強は出来ないんだよ。」

始めはうさん臭そうに聞いていたA君も、熱心に話しをする私に気後れしたのか黙って耳を傾けてくれました。

翌日早朝にA君の母親から電話がありました。「夕べ、”お母さん僕の部屋にストーブを持って来て”と言うの。持って行くと今まで物置だった机の上が奇麗に整理してあって、息子が勉強しているのよ。信じられる？何時迄続くかしらね。」しかし、A君は母親の期待を見事裏切って、ファミコンも何時の間にか部屋から姿を消し、翌春、地元の難関の高校に入学し、今年東京の某有名私立大学に推薦で受験し合格しました。

実は私はA君に大きな嘘をつきました。学問というものは高校だけで終わるものではなく、大学でも勿論必要です。社会に出ても情報、知識、技術、教養を身につける努力をしない限り、日々進歩する時代の激流に流されてしまふでしょう。三十六才になってから必要に迫られ英会話の勉強を始め、五年後の今、ペラペラになった人を知っています。又四十五才から安定した生活と妻や子供を置いて、アメリカエイズセンターに二年間行ったきり、まだ帰って来ない医師もいます。六十五才でタイの山奥に移り住み、山岳民族の

研究と支援をしている人もいます。学問は一生涯のものなのです。自分の体から手放してはいけないものなのです。そういう意味で、大代小中PTA公民館合同研修会には大きな意義があると思います。

### 唱歌の旅 (三月)

「どこかで春が」

一、どこかで春がうまれてる

どこかで水が流れ出す

山の三月 そよ風吹いて

どこかで春がうまれてる

二、どこかでひばりか鳴いている

どこかで芽の出る音がする

山の三月 そよ風吹いて

どこかで春が生まれてる

「盛年の主張」優秀作品

私の三幕目 (次号続き)

東京都 尾崎さち (六八才)

もし、子供時代を人生の一幕目としたら、結婚して子育ての終わった私は二幕目も終了したことになる。オーケストラなら終楽章に入る前の静けさ。



今私は幕間にいるのかもしれない。もし神様が私に三幕目を下さるとしたら、私は自分の体を大切にし、嫁しては夫に従えの世界から脱出し、もつと自分を主張する人生をとり戻さなくてはいけない。

それでも不思議に退院を許された私は、毎日が再発と死と隣合わせながら現実の生活の戦いに忙しく明け暮れた三幕目の舞台にはい上がった私は市の公報紙を読むことから始めた。やがて春の日、月に一回という自然セミナーに参加した。この町の川や湧水(ゆすい)、林や野草を観察して歩く健康的で心温まる集まりだった。歩くことが第一の私には手ごろでうれしかった。

二年目、月に二回集まりがある写真教室に入会した。カメラを手にするのは初めてだった。それは娘が亡くなる前はまったく笑顔を忘れてしまい、ただ花瓶の花だけを楽しみにしていたことを思い出したからだった。けなげに咲く野の花を写してひたすら歩いた。命がけの思いで参加した尾瀬ヶ原の大自然の素晴らしさは、ただただ神に感

謝するばかりだった。

三年目、初心者卓球教室に加わったもう六十歳を過ぎていた。跳ぶことも走ることもやっとの有り様で、球拾いをしながら温泉ピンポンと笑われていた。それでも笑いに交じって大声を出して打ち込むと、ストレスを解消することが出来、一瞬病気を忘れられた。そうして体力を取り戻した四年目、念願のボランティアにたどり着いた。ようやく死神から解放されたように思えた。

この老人給食の調理配達ボランティアは昔、少し参加したことがあったが、それからもう十数年も続いており最近では市の福祉課も加わって、市内の四カ所と同じ献立が作られ、材料費の一食分六百元は半額の補助があるとのこと、私のチームはいつも十五人位で五十食を作り届けていた。「ここへ来てただ働きをして、不愉快な思いをして帰っちゃだめよ。無理しないでね」と言われた時は、ウーンと言葉に詰まってしまったが、主婦業ウン十年のベテランばかりの「ちえ」はすばらしく、どこから、いつ入っていても清

潔で流れ作業は少しのむだもない、しかも楽しいものだった。

出来上がったばかりのお弁当二個を赤い花柄のふろしきに包み自転車の荷台に入れ、待っている方の笑顔を思つてペダルを踏む。川べりを一気に二、三の友人と下る。鉄橋の下まで来るといつも夕焼けの富士山が美しい。今日も無事に働けたことを感謝する。

数ヶ月に一回試食用をいただく。使したたたくさんのふきんの洗濯もいっしょについてくる。今日の様子を話しながら、甘い辛い、「一杯やっか」と夫と笑う。「一ヶ月にたった三日だけ健康で頑張るからよろしくね」というと、「残る二十七日はわしのボランティアか」と八十近いしわの顔が答える。

でもまだもう一つ私には決心が残っている。

それはホスピスのお手伝いができたらさせて欲しい、ということ。果たしてたどり着けるか、体も心もまだまだ思い悩んでいる。三幕目の舞台はどう続くのか。主役を勝ち取ったはずの私でさえ事の重大さに見当がつかない。

ただこの頃は祈るだけの毎日である。がんばれ盛年よ！

◎クイズ(二月号の答は割引券)  
出火のお詫びとお礼

下市 藤島芳香

先日私共の思わぬ不注意から出火に至り、町内の皆様方に思わぬご迷惑をお掛け致しました事心からお詫び申し上げます。早速かけつけて頂き、お陰様で納屋を全焼しただけで済み、又、心温まる御見舞まで頂き家族一同感謝申し上げます。本当に有難うございました。

\*\*\*三月の行事\*\*\*

6日(日) 婦人会総会

12日(土) 中卒業生激励会

13日(日) 福祉弁当

16日(水) 中学校卒業式

18日(金) 幼卒園式・小学校卒業式

◆社協大代支部よりおしらせ

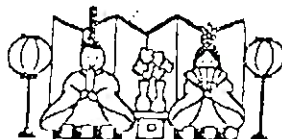
香典返しに替えて 川上 角 岩雄様

大田市 渡利安雄様、渡利尚様

火事見舞返しに替え下市 藤島芳香様

大代公民館へ植松 鳥尾尾正様から

夫々御寄付を有難うございました。



郷土誌紹介

「ものいわぬ皇子」

大田市 石村勝郎

大田市大代町八代に「久具」という奇妙な地名がある。先日、大代町の人にこの地名の語源について尋ねられた。この地名には遼摩郡福光の「物不言城」(福光城)や大田市祖式町の本智戸(いま、この地名が使われているかどうか不明)と結びついて、遠い昔二千年前の「ものいわぬ皇子」の物語りが秘められている。

白鳥のことを、古代は「鶺鴒」と呼んでいた。白鳥の鳴き声が「くぐ」とか「くぐい」というふうに聞こえるからである。平安時代につくられた和名抄にも「鶺鴒・久々比・大鳥也」と書かれている。

大代町八代の「久具」は、「鶺鴒」という文字が転訛したもので、久具とは白鳥のことである。

◎「久具」の由来

ものいわぬ皇子の旅

神武天皇から数えて十一代目の垂仁

天皇の二十三年(甲寅)十一月、天皇は皇子の本牟智和氣王を出雲の大神(いまの出雲大社)参拝のため旅に出された。

この皇子は、長いヒゲが胸まで垂れる三十歳を過ぎてても、言葉を出すことが出来なかった。心配された天皇は太占で占ってもらったところ、出雲の大神のご意思だと分かった。

天皇は色々お考えになってみると、お父さんの崇神天皇の御代の六十年癸未の七月、出雲大神宮の御神室を無理矢理に差し出させたという事件があった。天皇は「きつとあのときのタタリに違いない」と気づかれて、皇子に唾立王・菟上王という縁起のよい王を付き添わせて、出雲へ送り出されたのだった。

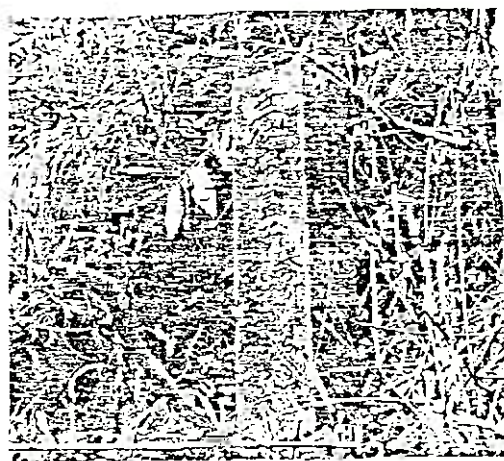
皇子の一行は中国山脈を越えて石見に入られ、大代町八代で、ふと空を見上げられた皇子は白鳥が飛んでいるのを見つけられ

「くぐい(鶺鴒)だ」

と叫ばれたので、びっくりした二人の王は「皇子がものをいわれた」と顔を見合わせて喜んだ。このためこの地を

「久具」(くぐ)というようになった。然し、喜びも束の間で一行が福光までこられると、再びものを言われなくなった。その地を「物不言」というようになったのも、こないわれからである。中世の戦国時代に、ここへ築かれた山城を「物不言城」あるいは「不言城」と名づけられ、変わった名前の城として知られるようになった。

「垂仁帝皇子記念碑」



(大代町弓久了真寺向い)